

朝日ヶ丘公民館だより

(公益財団法人) 千葉市教育振興財団
千葉市朝日ヶ丘公民館 8月号

TEL:043(272)4961 FAX:043(271)6994

Mail:asahigaoka@chiba-kominkan.jp

つどい まなび つなぐ ~地域の皆様に愛される 地域主体の公民館をめざして~

「環境」としての職員・・・覚えざるに

館長 長谷部 芳彦

道元の教えを弟子の懐奘（えじょう）という人が書き留めた「正法眼蔵随聞記（しょうぼうげんぞうずいもんき）=鎌倉時代に書かれた法語集」の中に、「霧の中を行けば、覚えざるに衣しめる」という言葉があります。

これは、「雨ならば笠をかぶったり、蓑（みの）を着けたりするが、霧ならば濡れることもあるまいと歩く。しかし、しばらくすると、知らないうちに衣はしつとりと濡れている。」ということです。「覚えざるに」は、知らないうちにとか、気づかないうちにとということです。

さらに、道元はこれに続けて「よき人に近づけば、覚えざるによき人となるなり」と言っています。霧が知らず知らずのうちに衣を湿らせたように、よい人のそばにいと、自分も知らないうちに感化されて、よい人間になるということです。

人々を取り巻く様々な環境を考えると、この言葉は、よい環境の中で生きることの大切さを教えているように思います。特に、環境としての「人」が「人」に与える影響は大きいといえます。例えば、子どもにとって身近な大人といえば、家庭では親、学校では教師ということになります。子どもは大人のすることをよく見えています。「子どもは親の言う通りにはしないが、親のする通りにする」という言葉もあります。そういう意味では、家庭教育が人間形成の基盤であり、親の果たす役割は大きく、社会教育を担う私たち職員もまた、同様に「環境としての自分たち」を自覚しなければなりません。

人は自分で意識しなくても、知らないうちに周りの人に影響を与えたり、周りの人から影響を受けたりしているものです。公民館では、我々職員も住民の皆様、利用者の皆様を取り巻く環境の一つであると考えられます。我々職員の言葉遣い、姿勢、接し方など、一挙手一投足が、よりよい環境となり、利用してよかった、よい雰囲気だったと思っていただけるようになりたいと考えております。

大切なことは目に見えません。けれど、確実に伝わるものです。

我々職員が、よい雰囲気づくり、整った環境づくりに貢献しているかどうか、常に自問自答しながら、本館を利用される人々とのとの関わりをこれからも大切にしていきたいと考えています。